

- 1、はじめに
- 2、下郷町の概要
- 3、1年目調査及び報告
- 4、現状、課題、提案
- 5、1年目では行けなかった場所
- 6、1年目を踏まえた2年目の現状、課題、提案
- 7、最後に

## 1 はじめに

私たちの今回の事業は、斬新な意見と行動力のある大学生が中山間地域などに実際に訪れ、実態の調査を行い、町おこしをするためにアイデアや活動に協力する事を目的としている。そこで、私たち福島大学生が同じ福島の南会津下郷町十文字地区で活動を行い、イベント協力やアイデアを出して十文字地区の発展や町おこしのために活動を行った。

後で具体的に説明するが、下郷町十文字地区は、美しい景観や自然を利用した観光で有名であるが、少子高齢化が進んでおりそれに伴う大きな課題がいくつか存在することがわかった。それらを我々学生らしい視点で町の魅力や現状を把握し、こうした課題に取り組んでいった。

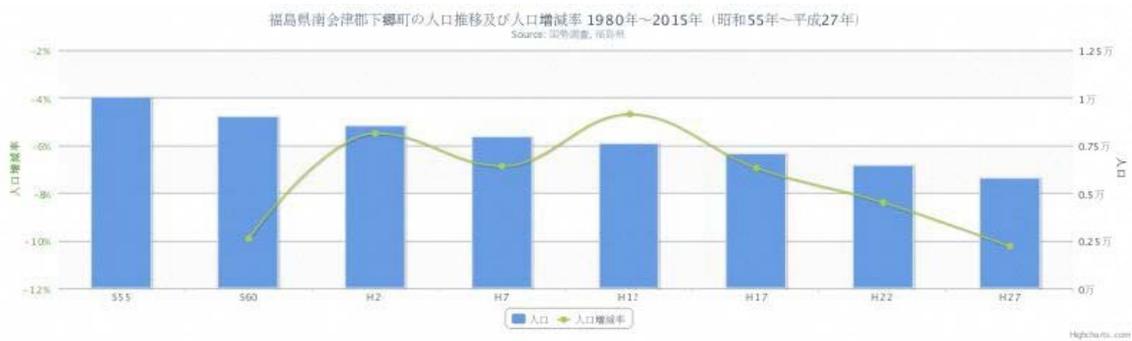
## 2 下郷町の概要

下郷町は、福島県会津地方の南部に位置している。東は、天栄村及び西郷村、西は昭和村及び南会津町、南は栃木県那須塩原市、北は会津若松市及び会津美里町とそれぞれ境界を接している。周囲是那須山系などの山々に囲まれ、町のほぼ中央を南西から北東に阿賀川（大川）が貫流し、国指定天然記念物「塔のへつり」に代表される雄大な渓谷が形成されている。面積の約87%は森林に覆われる緑豊かな町である。また、会津若松から今市に至る会津西街道の宿場で、町のところどころで歴史の面影を見ることができる。気候は、日本海側の影響を強く受け、夏は高温多湿で朝晩は涼しく、冬は降雪量が多い積雪寒冷地帯となっている。

下郷町十文字地区  
福島大学経済経営学類西川ゼミ



人口は、2015年に5800人で下の図の国勢調査による福島県南会津郡下郷町の人口推移及び人口増減率<sup>1</sup>を見ると年々減少傾向にある。また、下の図の国勢調査から独自に集計した下郷町の年齢別<sup>2</sup>人口の推移を同時に見ていくと高齢者の割合が増えており、まさに少子高齢化が進んでいる。



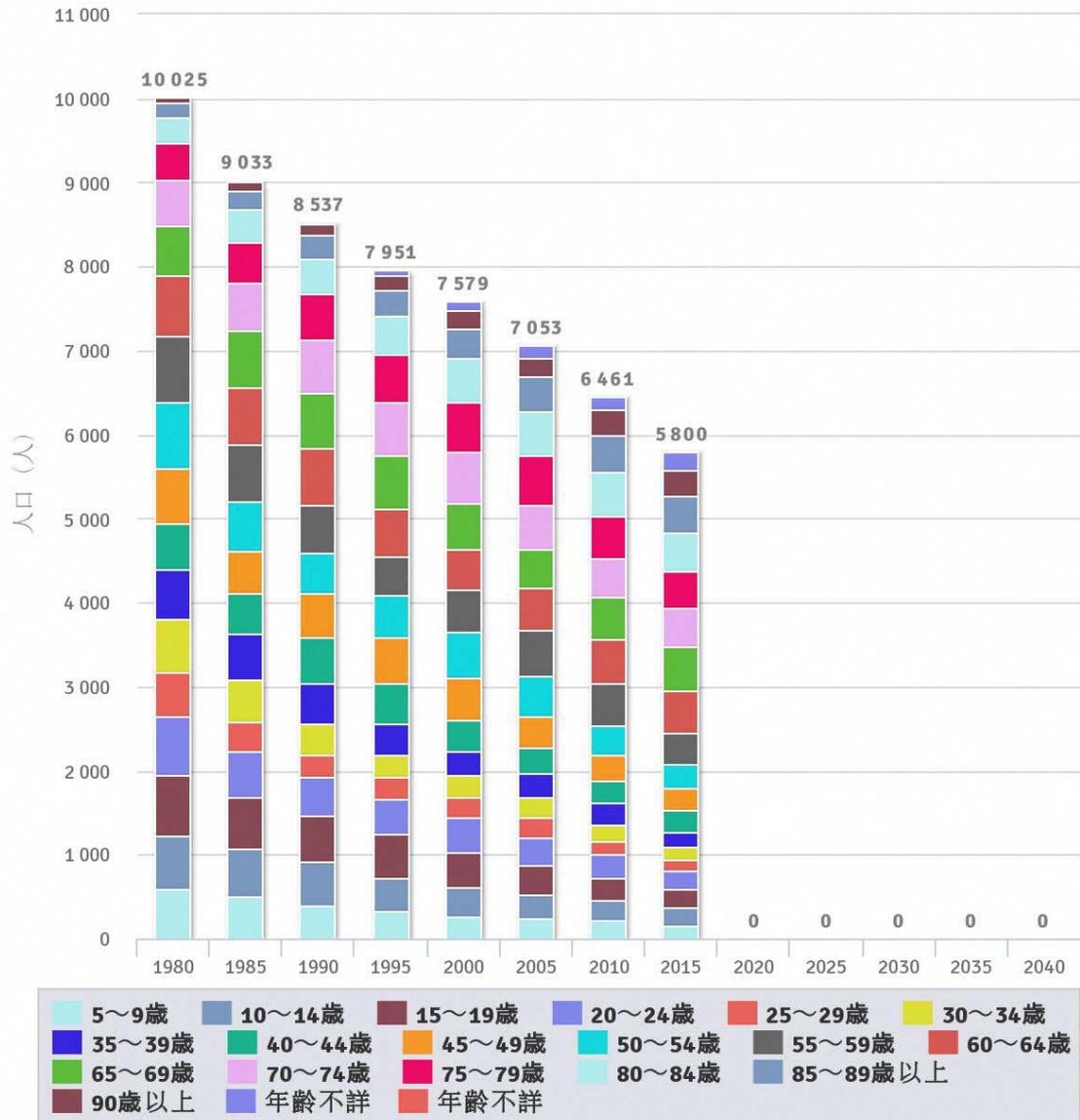
<sup>1</sup> 国勢調査 <http://demography.blog.fc2.com/blog-entry-5038.html> 最終ログイン 2018年3月6日 20:16

<sup>2</sup> 下郷町年齢別人口の推移 <https://ecitizen.jp/Population/City/07362> 最終ログイン 2018年3月6日 20:20

### 下郷町の年齢別人口の推移

出典:

「勢調査を独自集計」、「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）



## 3 1年目調査及び報告

ここでは、調査した場所やイベントを何個か紹介したいと思う。

### 1) 湯野上温泉駅

下郷町十文字地区  
福島大学経済経営学類西川ゼミ

会津若松駅から会津鉄道に乗って下郷町の玄関口である湯野上温泉駅に到着した。当駅は、日本で唯一の茅葺き屋根の駅であり、この茅葺き屋根は最寄りの観光スポットである大内宿の街並みになぞらえて第三セクター転換後にふかされたもの。待合室には茅の虫除けのためにも必要な囲炉裏があり、有人時間帯には火が入れられている。これらの特徴から、2002年（平成14年）に東北の駅百選に選定され、2005年（平成17年）度には、日本鉄道賞・特別賞を授与された。<sup>3</sup>また、駅内では下郷町の6次化商品が陳列されており、観光客でお土産に購入し帰られる方も多いそうだ。震災以降に足湯が設置され、現地の方もそこに集い、多くの方の憩いの場となっている。



---

<sup>3</sup> <https://ja.wikipedia.org/wiki/湯野上温泉駅> 最終ログイン 2018年3月7日10:45



## 2) 猿楽台地 そば畑

そばは、下郷町の特産品であり、ここでは蕎麦の花が台地一面に広がっている。農林水産省などが主催した「第7回美しい日本のむらコンテスト」の生産部門で農林水産大臣賞に輝いた場所。



下郷町十文字地区  
福島大学経済経営学類西川ゼミ

私たちが訪れた時もこの風景を撮るために来ている方もいて、カメラマンの中にも多くのファンがいる。この周りは車が通れるのはもちろん、サイクリングロードになっており、風情を楽しめるようになっている。

### 3) そば祭り

下郷町十文字地区で開催され特産品のそばを使ったお祭りで10年以上続いている。最近では、年二回開催されている。ここでは、目の前で職人さんがそばを打って出来立てのそばを堪能することができる。他にも、地元で採れた新鮮な野菜や6次化商品が販売されており、毎年楽しみにしているファン、リピーターが数多く存在する。私たちもこのお祭りに参加し、お手伝いさせていただいた。



#### 4) 道の駅しもごう

地元猿楽台地で生産された良質なそば粉を使用した手打そばや会津地鶏丼などが楽しめる他、木工品や地元特産物等の提供も行っている。6次化商品の開発にも積極的であった。



#### 5) 阿久津農園

阿久津農園は、会津地鶏の卵と、里山トマト「桃太郎」その他野菜などを生産出荷し、6次化商品開発を積極的に行っている。実際にトマトジュースを試飲。



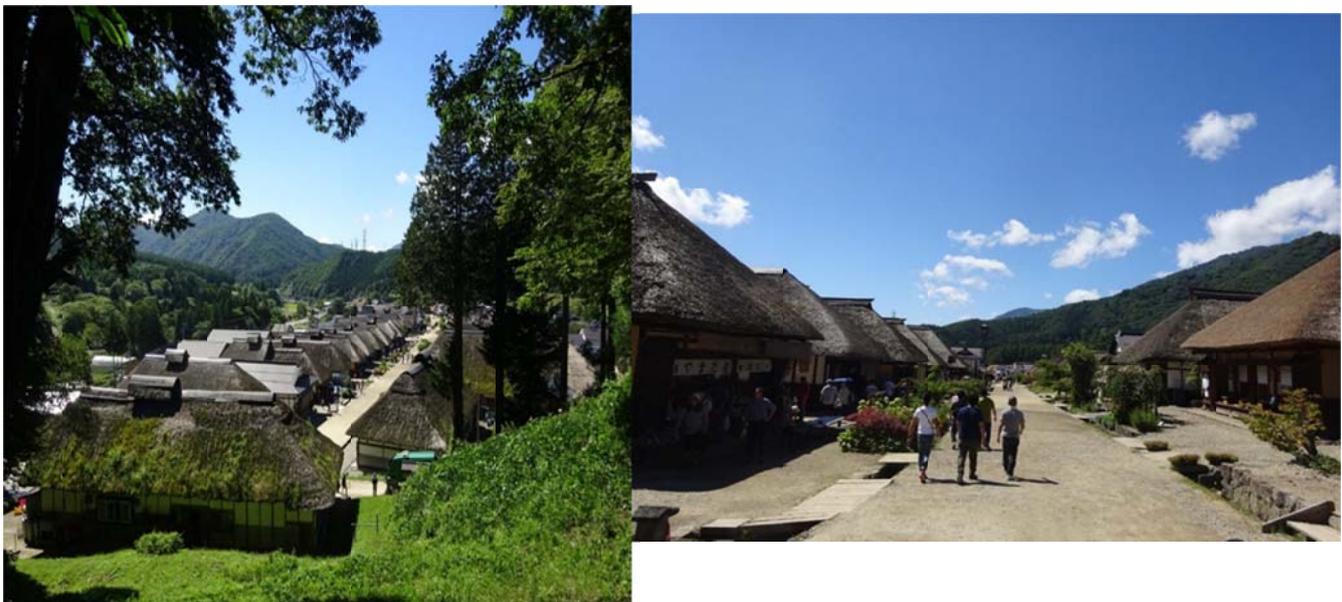
## 6) 漬物工場 香精

6次化事業所。県では、南会津地方の中小企業連携の一環として、新たな受発注機会の拡大や、業務・技術提携などを目的に「福島県南会津ものづくり企業ネット」を立ち上げ、試験研究機関や大学、そして全国的な組織などとも連携していく体制を構築した。その姿勢を積極的に取り入れている。



## 7) 大内宿

大内宿は、会津城下と下野の国(しもつけのくに)(栃木県日光市今市)を結ぶ全長 130 キロメートル(32里の区間)の中で会津城下から3番目の宿駅として1640年ごろに整備された宿場町。



## 8) 塔のへつり

へつりは、この地方の方言で危険な崖という意味である。塔の形が立ち並ぶ断崖で百万年の歳月をかけて、浸食と風化を繰り返し見事な景観を創った初夏、藤の花と白い岩肌の織りなす眺めは、まさに一幅の名画となっている。



## 4、現状、課題、提案

### 現状

1) 一次産業は6次化がしっかり形成され、地産地消がなされており、ブランド化しつつある

2) 人や、自然、文化、歴史など多様な観光資源がある

→優しい人、印象の残る人が多い

→リピーターが多く存在している

商品販売を電話で行うことでお客さんと直接取引できる

3) 観光のための文化ではなく、そのままの住民の生活文化を活かした観光

→生活の一部になっているため、無理せず観光資源を維持することができる。

4) 住民自身が地域活性化に熱心に取り組んでいる

5) 情報発信が乏しい

→広告紙が白黒用紙だったことや、目に留まりにくい場所に貼ってある

→有名な観光地以外の地域の情報発信が少なく、差が大きい

→交通手段が認知されていない

6) 後継者問題

→「引き継ぐ若者が出てきそうもない。このままやっていて意味があるのだろうか」という住民の声

→下郷町に残る若者が少なく、後継者不足が問題

7) インバウンド観光客に対応するには小さな自治体であるため、急速に進めるのが難しい

EX) 外国語表記、看板、クレジットカードなど

8) 観光客のターゲットが明確でない

## 課題

- 1) 後継者不足…後継ぎがないため、自分の代で終わりにするつもりが生産者が存在  
→これまで時間をかけて確立してきたブランド力がここで途絶えてしまう  
+今後特産品として売り出すことが危うい  
(EX. そば祭りなどのイベント、農家の農産物)
- 2) 交通手段のPR不足  
→交通機関（シャトルバス等）の詳細が把握されていない
- 3) 震災の影響で、観光客の減少  
→復興してきている現状や町の魅力をもっとアピールする必要あり
- 4) 情報発信の乏しさ  
→SNSが主流のいま、ホームページをはじめ  
ツイッターやフェイスブックなどの更新をこまめに  
する必要あり  
→人々の注目が集まり、集客につながる
- 5) そば祭りの位置付け  
→若者が参加していない  
→観光資源として確立していない  
→集客要素が少ない  
→認知度が低い

## 提案

- 1) 後継者不足解消のため見学・体験ツアー（EX. 農業）を組む  
→まずは地域の若者に地元の農業に興味を持ってもらうことが大切
- 2) バスなどの公共交通に力を入れ、地元の人々の暮らしの足を支えるとともに、観光客の移動手段を確保する  
→下郷町の特徴として、観光地点が点在していることから観光地同士を結ぶ公共交通を充実させる必要がある

- 3) 震災後の観光客減少に関して、復興の現状を積極的に開示し、食も土地も安全であることをアピールする。  
→震災から約7年が経ち、復興も着々と進んでいるという現状を多くの人に知ってもらおう
- 4) SNS をフル活用して、下郷町の魅力やイベントの情報発信をしていく  
→一人一台スマホを持つ時代なので、積極的に SNS を更新していく必要がある
- 5) そば祭り  
→小中学校と提携し、生徒に参加してもらおう  
→観光地やイベント相互の情報提供や提携

## 5、1年目で行けなかった場所

2年度は、1年度に訪れることができなかった他の下郷町の観光スポットや商業施設にも行って来た。同じく一部分ではあるが紹介する。

### 1) 観音沼森林公園

公園一带は、野鳥の宝庫であり、四季を通じて鳥のさえずりを楽しむことができる。観音沼の周囲には四季折々の美しさを楽しめる花木等が植栽され、春・夏・秋それぞれに違う表情を見せる観音沼を、ゆっくり散策しながら楽しむことができる。

下の写真は、下郷町観光協会のホームページから転用させていただいた写真である。ご覧の通りたいへん風情があり、カメラマンの中にも多くのファンがいる。



## 2) 下郷町物産館

道の駅しもごうの他にも賑わっている商業施設として、下郷町物産館がある。ここでは、下郷町を中心とした南会津の農産物を安価で販売。さらに民芸品や工芸品も豊富で、会津地鶏はここ下郷町物産館のみで販売している。食堂の手打ちそばはそば粉100%、移動販売もしている「マスバーガー」も臭みがない白身魚をじゅうねん（えごま）を練りこんだバンズで挟んであり、人気商品となっている。毎日多くのお客様が訪れ、経済的効果は大きいと考えられる。



## 6 1年目を踏まえた

### 2年目の現状、課題、提案

#### 現状

- 1) 特産品のそばを使って、そば粉だけではなく、そばの実を使った商品販売し下郷町の魅力をさらにPRする計画が進んでいる。
- 2) そば畑の魅力を生かすためサイクリンクロードの整備また、展望台の建設計画案も出ている。
- 3) 子どもたちなど多くの人々に農業体験として、農家民泊の準備が進んでいる。
- 4) 少子高齢化は大きな問題となっている。
- 5) 下郷町の大イベントであるそば祭りのPR不足  
会場までの看板と地元の方に広告を配っただけで、情報発信が内側だけである。

#### 課題

##### 1) 少子高齢化問題による後継者不足

下郷町十文字地区を盛り上げるため様々な計画が出ているが、少子化による後継者不足問題もあり、前向きではない方もいらっしゃる。

そば祭りをお手伝いさせていただいた時に若者がいると活気が違うと言ってくださる方もいらっしゃった。十文字地区を盛り上げるためにも後継者や若者の協力は重要であると感じた。

##### 2) 情報発信力の乏しさ

十文字地区（内）へのPRはされていると感じたが、外への発信力がまだまだ乏しい。

3) 農家民泊は、確かに農業を直接体験できる良いきっかけとなるが民泊する側の要求（浴槽の大きさやウォシュレット付トイレなど）が実際の農家のお宅との差がとてもある。

## 提案

- 1) そば粉やそばの実に下郷のマスコットキャラクターや猿楽台地のそば畑の風景を載せて十文字地区の魅力をよりアピールし、消費者に強く印象づける。私たちのような地元ではない人々から見ると青い空と緑の山の中に白い花が一面に広がる大変綺麗な風景で、わざわざカメラで撮りに来る程であるが、地元の方々は、幼い頃から見ているため言われるまで何も感じなかったそうだ。そこで、更にPRをしていくことは重要だと思う。
- 2) 子どもたちにもっと地元の魅力に触れてもらうことが必要だと思う。実際に下郷町出身の大学生に地元の話を聞いたところ、そば祭りや観光スポットなど知らないことがとても多かった。子どもたちが地元の魅力を知らなければ、たとえ仕事があり、経済的に発展していても残る人は減ってしまうと思う。まず、子どもたちに地元の魅力を体験して知ってもらい、地元を誇りや思いを強く持ってもらうことで、農家を継いだり、地元で何らかの形で貢献する人が増えてくると考える。他の行政では、地元で採れた野菜や6次化商品を給食に提供することで、地元の農家の活性化と子どもたちに自分の地元のことを知ってもらうことにつながったという事例がある。また、そば祭りで若い人がいると違うという意見から、実際に地元の学生や子どもたちに協力してもらおうと更に盛り上がり、地元に残る後継者が出てくるのではないかと考えた。
- 3) 下郷町は観光スポットや商業施設が各地に点在しており、それぞれが多くのファンや観光客が訪れているので、お互いにお互いの場所のPR活動などを進めれば、より多くの観光客にPRできるのではないかと考えた。そうすることで十文字地区だけではなく、下郷町全体として盛り上がれば結果として、十文字地区の魅力も広まり活性化するのではないかと考えた。

## 7、最後に

実際に人生経験も短い私たちの活動やアイデアで成功するのは難しいのかもしれないが、2年間を通じた活動で町の活気や今後のアイデアのきっかけになっていただけたらと思い、活動させていただいた。現地でお世話になった阿久津さん、洗心亭さん、大内宿の方々、香精さん、小松さんなど多くの現地の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。